風情豊かな北信濃、鬼無里の旅へ

おでやれ きなさ

谷の都
鬼無里
信州◉きなさ
KINASA

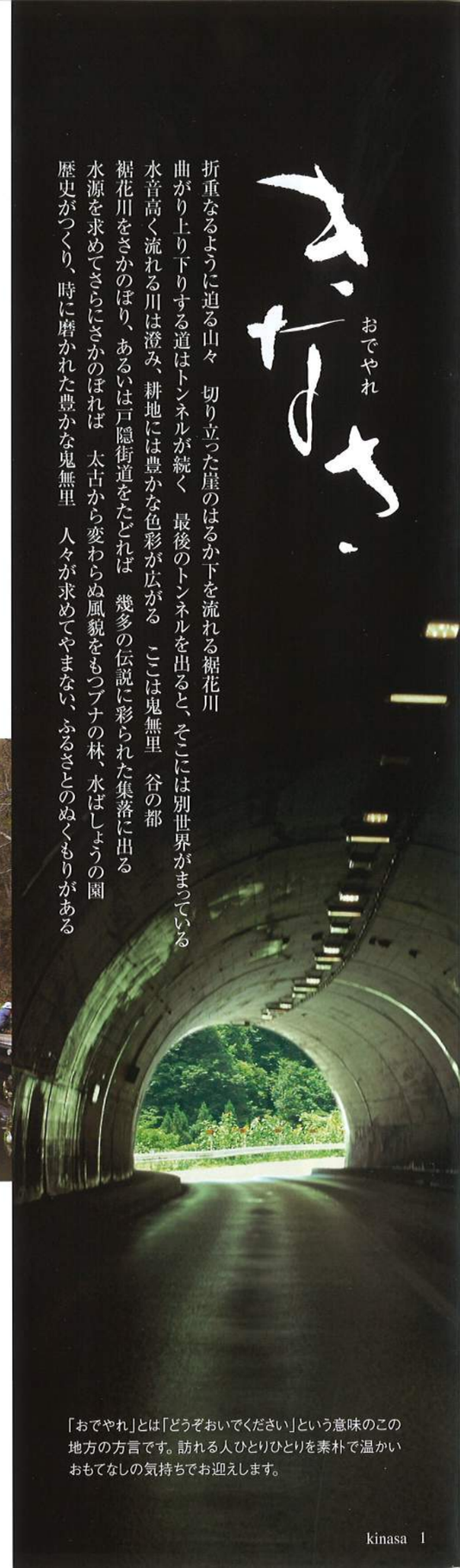
四季折々、大自然に抱かれて思い思いの旅。

鬼無里までのアクセスマップは、9ページをご覧ください。

鬼無里観光振興会：〒381-4302 長野県長野市鬼無里日影2750-1（鬼無里支所内）
TEL.026-256-3188 FAX.026-256-2237
URL http://odeyarekinasa.jp/

おでやれ、きなさ。

折重なるように迫る山々　切り立った崖のはるか下を流れる裾花川
曲がり上り下りする道はトンネルが続く　最後のトンネルを出ると、そこには別世界がまっている
水音高く流れる川は澄み、耕地には豊かな色彩が広がる　ここは鬼無里　谷の都
裾花川をさかのぼり、あるいは戸隠街道をたどれば　幾多の伝説に彩られた集落に出る
水源を求めてさらにさかのぼれば　太古から変わらぬ風貌をもつブナの林、水ばしょうの園
歴史がつくり、時に磨かれた豊かな鬼無里　人々が求めてやまない、ふるさとのぬくもりがある

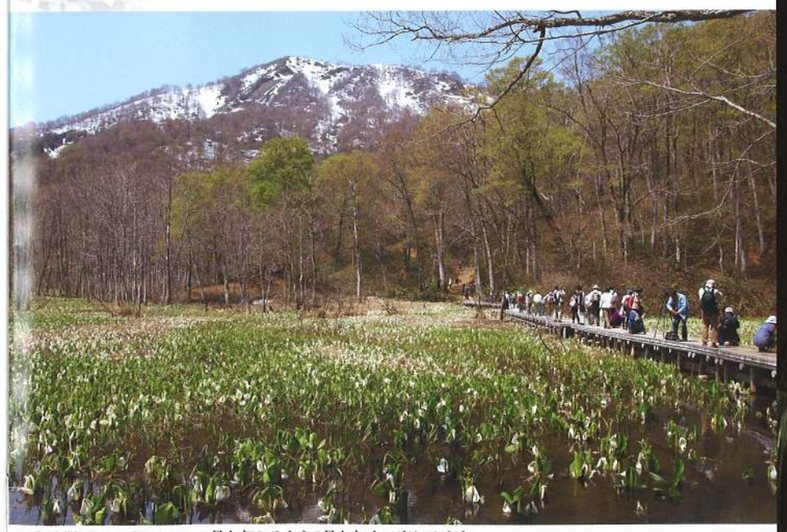


「おでやれ」とは「どうぞおいでください」という意味のこの地方の方言です。訪れる人ひとりひとりを素朴で温かいおもてなしの気持ちでお迎えします。

春 Spring

ブナの森が緑に萌え、いのち輝く季節。

ブナの森が緑に萌え、
いのち輝く季節
山に響く野鳥の声も
心を澄ませば聞えてくる
雪解け水に水ばしょうが目覚める気配
植物たちの息吹が森中に満ちると
奥裾花が緑に萌える季節は、
もうそこまで来ている

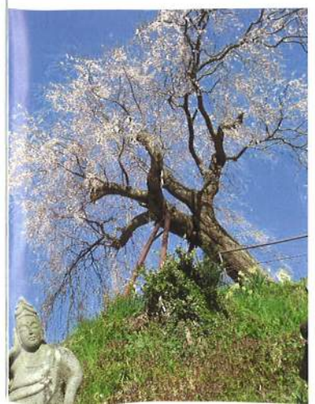


今池湿原のミズバショウ。5月上旬ころから6月上旬まで楽しめます。

福寿草が雪を割って顔を出すと、長い冬に終わりを告げます。

300年以上もの長い風雪に耐えてきたブナは、大地の母と呼ばれています。

白髯の杜では、毎年6月下旬頃になると、1万株にも及ぶ白や青・ピンクの花菖蒲が咲き誇ります。



樹齢400年といわれる高橋地区のシダレザクラ

柄山峠（古道）のビークから北アルプスを望む

花菖蒲が咲き誇り、蛍が飛び交う。すべてが喜びの時。

夏 Summer

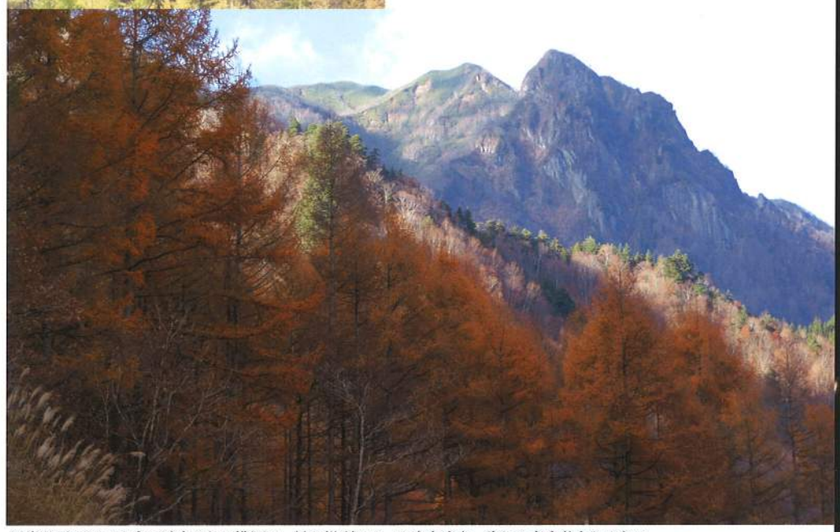
青々とのびた稲田
空を目指して背伸びするトウモロコシ
トマトは赤く重く熟れている
まだ明るさの残るなかに、
カナカナせみがなく
ふるさとの水、味、ふるさとの人
山ふところに抱かれた、
鬼無里の短い夏が過ぎていく

緑が濃くなり、
散策にとても楽しい季節に

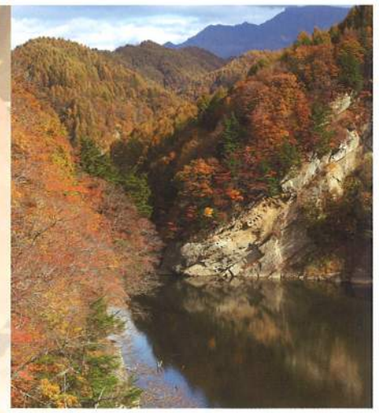
秋 Autumn

澄んだ空の下、自然のダイナミックなドラマに酔う。

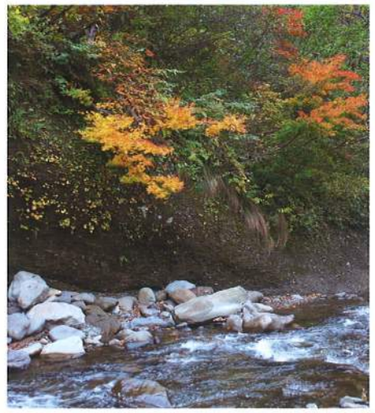
青く晴れあがった空に、くっきりと白い雲
秋の気配は山の上からおりてくる
空気がピーンと張りつめて
子どもたちの声も高い空に吸い込まれていく
里は一面に黄金色に染まる
実りの秋を迎えて、里は鮮やかに輝く



断崖絶壁の山々と色づく木々との構図は、見る場所によって姿を変え、訪れる者を飽きさせない。

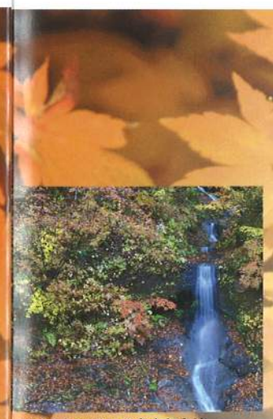


水面に映る青空、そして紅葉とあいまった美しさは見事。

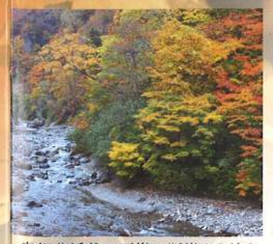


美しさで日本百景のひとつに数えられる、奥裾花渓谷。

奥裾花ダム
ダム湖に架かる奥裾花大橋は林道に架かる中路式ローゼ橋としては国内最長。茶色のアーチ橋が新緑、紅葉とあいまって湖面に映えて美しい。



雨とともに現れる名も無き滝



奥裾花渓谷の両岸の断崖から流れる滝と紅葉の風景はまさに屏風絵。10月中旬から11月上旬が見頃。

のきらめきが随所に見られ、がたっぷり広がっております。

ウォーキングマップ 鬼無里

神社と桜コース
●所要時間:1時間30分

鬼無里神社からスタート。行く先々の神社のしだれ桜は見事。中でも高橋のしだれ桜は長野市天然記念物。新井のイチイは県の天然記念物。歩くたびに美しさに感動の半日コースです。

松巌寺・鬼無里神社 ―20分― 岡（地蔵） ―10分― 高橋しだれ桜 ―15分― 財又しだれ桜 ―15分― 新井児安様 ―30分― 山角しだれ桜

（コース上のバス運行は月～金 1日4本）

北アルプス眺望コース
●所要時間:3時間

北アルプスの展望と史跡をめぐるこのコースは途中、荒倉山神社のトチ・皇大神社のケヤキ・峠のカツラ・中田のヒメコマツと長野市の天然記念物がズラリ。見ごたえのあるコースです。

松巌寺・鬼無里神社 ―30分― 荒倉山神社 ―30分― 文道公園 ―20分― 宮崎 ―15分― 蓑畑 ―50分― 中田（ヒメコマツ） ―35分― 大望峠

（コース上のバス運行は月～金 1日4本）

花と文化財コース
●所要時間:1時間40分

花と文化財がいっぱいのこのコースは、山車・神楽展示のふるさと資料館をはじめ重要文化財の白髯神社や花しょうぶ園など見どころ満載です。

鬼無里ふるさと資料館 ―10分― 鬼無里神社 ―5分― 松巌寺 ―10分― 鬼無里支所 ―10分― 和田の金吾淵 ―15分― 白髯神社（花しょうぶ園・ほたるの句碑） ―25分― 松島大日堂 ―25分― 鬼無里ふるさと資料館

文学・伝説コース
●所要時間:2時間

縄文晩期からの遺跡である内裏屋敷。雨が降りそうだと音をたてる機織石・木曽義仲と文珠堂伝承など、昔をしのびながら楽しむ伝説コースです。

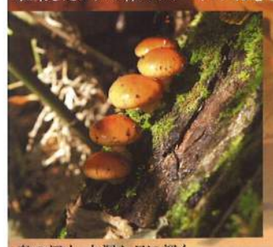
内裏屋敷跡 ―30分― 岩下 ―30分― 文珠堂 ―30分― 岩下 ―30分― 内裏屋敷跡

鬼女紅葉コース
●所要時間:約1時間

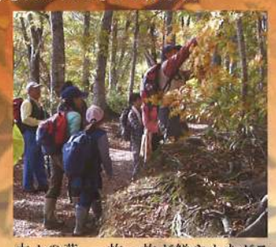
能や歌舞伎で知られる「紅葉狩」の主人公が過ごした里には、凶悪な鬼ではなく教養豊かで高貴な女性がいました。彼女が都を偲んで名を付けた地を巡るコースです。

内裏屋敷跡 ―15分― 西京 春日神社 ―西京― 西京 ―10分― 東京 加茂神社 ―東京― 東京三条 ―15分― 東京五条 ―20分― 内裏屋敷跡

紅葉したブナの森のウォーキングは心と体をリフレッシュさせてくれます。



森の深く、木漏れ日に輝く



木々の葉、一枚一枚が鮮やかなグラデーションに染まる

手付かずのブナの森には自然大自然が造り上げる森の魅力

冬 Winter

囲炉裏ばたで聞いた昔話は
ちょっぴり退屈で、それでも楽しい

鬼無里の昔話がよく似合う。雪の降る静かな夜は、

銀色に染まる山里と西岳連峰。静寂に包まれ凛とした空気が漂う。

鬼女紅葉

その昔、会津の伴笹丸・菊世夫婦は第六天の魔王に祈って娘呉葉を授かりました。娘が才色備えた美しい女性に成長したとき、一家は都に上って小店を開き呉葉は紅葉と名を改めて琴の指南を始めました。

ある日、紅葉の琴の音に足を止めた源経基公の御台所は紅葉を屋敷に召して侍女といたしました。紅葉の美しさは経基公の目にも止まり、公は紅葉を召して夜を共にしました。

経基公の子を宿した紅葉は公の寵愛を独り占めにしたいと思うようになり、邪法を使い御台所を呪い殺そうと謀りましたが企てが露見してしまい、紅葉は捕らえられ信濃の戸隠へ流されてしまいました。

信濃に至り、川を遡ると水無瀬という山里に出ました。「我は都の者。御台所の嫉妬で追放の憂き目にあいなった」と語る麗人に純朴な里人は哀れみ、内裏屋敷を建てて住まわせました。

紅葉は喜び、里人が病に苦しむと占いや加持祈祷で治してあげたのでした。

紅葉は付近の里に東京、西京、二条、三条、などの名をつけて都を偲んでいましたが、月満ちて玉のような男の子を産むと、その子を一目経基公に見せたいと思うようになり、兵を集め力づくでも都へ上ろうと考えました。

里人には「経基公より迎えが来たので都へ戻ります」と言い置き、戸隠荒倉山の岩屋に移ると、戸隠山中の山賊を配下とし、村々を襲い軍資金を集めました。

そのうわさが冷泉天皇の知るところとなり、天皇は平維茂に紅葉征伐を命じました。

平維茂は山賊共を打ち破り、紅葉の岩屋へ攻め寄せますが、紅葉は妖術を使い維茂軍を道に迷わせます。

妖術を破るには神仏の力にすがるほかないと別所温泉北向観音堂に籠もり、満願の日に一振りの宝剣を授かりました。

意気上がる維茂軍を紅葉は又もや妖術で退けようとしましたが宝剣の前に術が効きません。やむなく雲に乗って逃げようとする紅葉に、維茂は宝剣を弓につがえて放つと、紅葉の胸に刺さり、地面に落ちて息絶えました。

享年三十三歳と伝わります。

人々はこれより水無瀬の里を鬼のいない里・鬼無里と言うようになりました。

一夜山の鬼

昔むかし、天武天皇は遷都を計画され、その候補地として信濃に遷都に相応しい地があるかを探るため、三野王、小錦下采女臣筑羅らを信濃に遣わしました。使者は信濃の各地を巡視して候補地を探し、水内の水無瀬こそ都に相応しい地相であるとの結論を得ました。そこで早速この地の地図を作り奉り天皇に報告いたしました。

これを知ったこの地に住む鬼たちは大いにあわて、「この静かなところに都なんぞ出来たら、俺たちの棲むところがなくなってしまう。

「都が出来ぬように山を築いて邪魔してしまえ。」と、すぐさま一夜で里の真ん中に大きな山を築いてしまいました。

これでは遷都は出来ません。怒った天皇は阿倍比羅夫に命じて鬼たちを退治させてしまいました。

この時から、この水無瀬の地に鬼はいなくなったので 人々はこの地を鬼無里と、又真ん中に出来た山を一夜山と呼ぶようになりました。

夫婦石

長野市鬼無里檜木沢の、北安曇郡との郡境となる嶺方峠には道をはさんで2つの大石があり、夫婦石と呼ばれ、縁結びの神様として信奉されてきました。結婚したい者が安曇側の石に腰かけ、水内側の石に手を触れると水内から嫁や婿を迎えることができ、水内側の石に腰かけて安曇側の石に手を触れると、安曇から嫁や婿を迎えることができると言われておりました。

あるとき、村人の一人がこの山道を通ると、谷底から泣き声がしました。何事かと下りると、なんと見覚えある夫婦石の一つが落ちているではありませんか。村人は里へもどって仲間を集めもとの場所にもどしてあげました。

夫婦石は、やはり不思議な力を持った石だったのです。

木曽殿アブキ

木曽殿アブキは、裾花川源流部にある間口60メートル・奥行20メートルの巨大な岩屋です。江戸時代の「信濃奇勝録」によれば、昔はもっと大きくて「経80間（約145m）、奥の深さ40間（約73m）もあり、岩屋の上から水簾の滝が落ちていた」そうです。

木曽義仲は北陸進攻の際、この岩屋に兵馬300騎を休めて、野営し、木曽殿アブキの名はそれゆえと伝わります。※現在、吊り橋崩壊のため行くことができません。

「浦見の山」歌碑

たづねばや　心のすゑは　しらずとも
人をうらみの　山のかよひぢ

鎌倉時代、藤原長清が撰集した夫木和歌抄におさめられた、従三位為実の歌です。同時代の歌論書「八雲御抄」に浦見の山は信濃とあります。さらに江戸時代の善光寺道名所図会は、浦見の山は、土倉村嶺を越えて戸隠山を右に見て、鬼無里から越後へ抜ける間道より見たものと論じています。

歌の意味は、「人の心は、どのように変ってゆくかわからない。たとえ行く道が険しく、その先につらく厳しい現実があるとしても、わたしは、つれなくなってしまったあなたの元を訪ねようと思う。」書は岡野弘彦先生です。

万葉歌碑

庭立麻手苅干布暴
東女乎忘賜名
（庭に立つ麻手苅り干し
布さらす
東女を忘れたまうな）

昔、鬼無里には「麻蒔き桜に肥辛夷」の農事暦があり、里人はコブシの花がほころぶ頃、畑に肥料を撒き、山桜の花の頃、麻の種を蒔きました。

麻は重要な換金作物でしたが、化学繊維の普及などにより、今日、鬼無里に麻畑は有りません。しかし昔の人が雪国のハンデを逆手にとった雪晒しで最上の畳糸を生みだし、その畳糸が鬼無里に反映をもたらしたことを、鬼無里の人が忘れることはないでしょう。書は松本出身の上條信山先生です。

「月夜の陵」詩碑

内裏屋敷跡から山道を100メートルほど登った高台に、天武天皇時代、都造営のための検地使者としてこの地に赴いて客死した皇族某のものと伝わる古墳があり、月夜の陵という美しい名が伝えられています。

詩人田中冬二は鬼無里を訪れてこの伝承を知り、詩を作りました。

信州の戸隠や鬼無里は
はや一年には十一月に　もう雪が来る
鬼無里に月夜の陵といふ古蹟がある
白鳳の世に　皇族某が故あって
此処に蟄居したが　その墳墓と云はれてゐる
その史実はもとより伝説さへ
日に日に忘却されやうとしてゐる
月夜の陵
何といふ美しくまた悲しい名であろう

詩碑の揮毫は、堀辰雄氏夫人多恵子先生です。

大龍寺御詠歌碑

大龍寺御詠歌は、「大湖の水が涸れた時、湖に棲んでいた大龍は大岩に変った。岩の中に光る石があり、これを祀った堂が大龍寺の始まり」との寺伝を詠ったものです。

大龍の腮の玉の光そふ
甍ならびし寺のとふとき

大龍寺は、平安時代に戸隠山の僧栄誉が現在の上町地区の高台に創建し、戦国時代、僧祐聖が中興。天台宗本山東叡山寛永寺直系として、高僧が住職に就く格の高い寺でしたが、昭和15年焼失しました。

御詠歌は信濃新四国札所としての大龍寺のもので、信濃新四国札所は、江戸後期、大原村（現信州新町）の駒込伊兵衛が、四国八十八ケ所と坂東 西国 秩父百番観音霊場の計174ケ所の土を信州の174寺に移土して始まりました。大龍寺には四国四十七番八坂寺の土が移されました。

川端康成文学碑

ノーベル文学賞受賞者川端康成は、鬼女紅葉伝説に興味をいだき、昭和11年11月23日、鬼無里を訪れました。松厳寺境内の文学碑は、碑陰にその紀行を記した小説「牧歌」の一説を刻み、碑文には、川端がノーベル文学賞記念講演「美しい日本の私」の冒頭で引用した道元の和歌を川端の自筆で刻んでいます。

春は花　夏ほととぎす
秋は月　冬雪さえて
冷しかりけり

舟繋ぎの樹の詩碑

寛政元年（1789）初夏、松代の長国寺（松代藩主真田家菩提寺）住職千丈実巌は、松巌寺で行われた戒会で戒師を勤めた帰途、中田の十二明神で輿を休め、里人より茶菓のもてなしを受けました。この折り実巌は「船繋ぎの樹」の伝承を聞いて、創った詩がこれです。

傳聞盤古代　山聳爛泥中
曾有停船客　今留繋纜蹤
藤縄掛神木　雲氣接竜宮
堪感滄桑変　誰能究劫空
（伝え聞く盤古の代
山聳ゆ爛泥の中
曾て船を停め客有り
今、纜を繋ぎし蹤を留む
藤縄を神木に掛け
雲気竜宮に接す
滄桑の変を感ずるに堪たり
誰か能く劫空を究めん）

書は永平寺貫主の丹羽廉芳師

舟繋ぎの樹

中田の十二神社は、鬼無里の谷が湖であった時に湊だった所で、南西へ直線距離で7・5キロメートル離れた飯綱神社（現小川村飯綱山頂）を結ぶ渡し船があったそうです。神社には根回り三丈八尺（11・5m）の槻の木（ケヤキの古名）があって、舟の纜をこれに繋いだところから「舟繋ぎの樹」と呼ばれました。

十二神社の紋章が「帆かけ船」で、鳥居を「波よけの鳥居」と呼ぶのもこの故事からです。代々の槻の木の子孫である大ケヤキは、太い藤蔓を幹と枝に巻きつけて天にそびえています。

十二神社の別名は藤の宮。

アオゲラ

ノジコ

ノスリ

キビタキ

オオルリ

奥裾花自然園

裾花川の源流部、新潟県との境に近い長野県長野市鬼無里のブナ原生林の中で、ミズバショウの群生が発見されたのは昭和39年のこと。それは81万本もの大群落でありました。
奥裾花自然園のミズバショウは、春のゴールデンウィークの直前から6月上旬頃まで、雪解け水が流れる今池湿原・こうみ平湿原いちめんに、白い清楚な姿を見せてくれます。
この時期はまた、青空の下でブナが一斉に芽吹きはじめ、オオヤマザクラが咲き、タムシバ、オオカメノキが白い花弁をひろげ、足下ではスミレやイワカガミが小さな花を可憐にひらいて奥山の春を彩る、息吹きの季節です。窪地には雪も残っていますので、
足下に充分ご配慮いただきましてご来園ください。

奥裾花キャンプ場
開設期間／7月～9月
施設／テント5～6人用30張、炊事場、トイレ
用具／貸毛布200枚、薪など

■お問い合わせ・お申込み
長野市鬼無里支所 TEL.026-256-3169

■2時間コース(4月下旬～6月上旬・10月／シャトルバス運行時)

観光センターバス停――(バス10分)――自然園入口バス停――(徒歩10分)――休憩舎広場――(徒歩5分)――今池湿原(右へ回る)――(徒歩15分)――弁天島――(徒歩15分)――今池――(徒歩5分)――こうみ平湿原(右へ回る)――(徒歩20分)――休憩舎広場――(徒歩10分)――自然園入口バス停――(バス10分)――観光センターバス停

■3時間コース(全シーズン)

観光センター――(徒歩25分)――奥裾花社――(徒歩25分)――休憩舎広場――(徒歩5分)――今池湿原(右へ回る)――(徒歩15分)――弁天島――(徒歩15分)――こうみ平湿原――(徒歩10分)――吉池――ブナ原生林の中(徒歩30分)――今池湿原――(徒歩15分)――休憩舎広場――(徒歩25分)――元池――(徒歩15分)――観光センター

豊かな自然に囲まれ、ブナの原生林の散策も楽しめます。

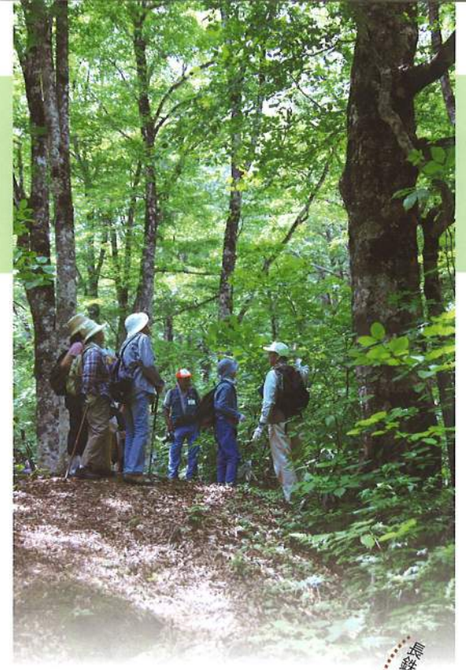
ギボウシ

エゾアジサイ

タニウツギ

ウリノキ

キオン



ゴジュウカラ

アカショウビン

フクロウ

樹齢300～400年のブナやトチの原生林に囲まれた
7ヘクタールの湿原地帯。

秋の自然園は、ブナやカエデ、ミズナラなど色鮮やかな紅葉が見事。

蝶や虫たちが自由に飛び交う…
ここはまさに自然の楽園。

ヤマハギ

ショウジョウバカマ

ツバメオモト

サンカヨウ

オオカメノキ

四季折々の豊かさ自然に育まれた、
人々の素朴さに触れる…心の故郷、鬼無里。

JAながの

燃料と修理点検は
ENEOS
鬼無里給油所
長野市鬼無里2307-1
Tel.026-256-2021

A-COOP
ジェイエイながの
鬼無里店生活店舗
(食料品・日用雑貨)
長野市鬼無里291
Tel.026-256-1245

施設／食堂、売店、浴室、和室、洋室、交流室、宴会場、会議場
収容人数／宿泊人員29名
コテージ／5棟(宿泊30名)

無色透明で臭いも薄く、肌触りの良い湯質が地元の人にも愛されている温泉です。
落ち着いた佇まいと開放的な造りの本館、木の香りが漂うコテージの2つの宿泊設備。
水芭蕉の咲き乱れる春、ホタル舞う新緑の夏、緑織りなす紅葉の秋、一面銀世界の冬、鬼無里の四季をお楽しみ下さい。

奥裾花温泉
ホテル＆コテージ
鬼無里の湯
〒381-4302 長野県長野市鬼無里日影8855
TEL.026-256-2140 FAX.026-256-2200

ここ、鬼無里でしか味わえない素朴な味わいと
心のぬくもり…山里の宿。

ローカルレストラン ホワイトタイム

山の幸に恵まれた鬼無里で、春は山菜、秋はキノコと豊富な山の恵みを手づくりの季節料理で皆様の心を満たしていただくようお越しをお待ちしています。
すいとん定食、山菜の天ぷら、秘伝のタレの生姜焼き定食やキノコ鍋などいろいろございます。

●収容人員　60名　●長野市鬼無里1678-3
●TEL.026-256-2232

鬼無里の本物の味を心がけています。 山城屋館

日本百景の一つ奥裾花渓谷、本邦一の水芭蕉群生地で知られる鬼無里は、四季折々、すばらしい顔をみせてくれる休養の地です。春のメインは採りたての山菜料理、秋はきのこ料理をと、常に鬼無里の味を十分味わっていただけるように心がけています。それに、泊まり客がみんな家族のようなのが、何よりです。
予約で仕出し弁当もお作りします。

●収容人員　20名　●長野市鬼無里392
●TEL.026-256-2029　FAX.026-256-3306

そば処鬼無里

営業時間 10:00～16:00
定休日 木曜(12月～3月)(4月～11月は無休)

戸隠山麓の高須辺は標高1,000m、夏でも冷涼そばの成長期に霧が発生しやすい気候風土で、味が良く香りの強いそばです。当店自慢の十割そばの味、風味、のどごしの良さを是非ご堪能ください。

信州 鬼無里

えごま饅頭

鬼無里特産 えごま入り

6ヶ入 480円(税込)、10ヶ入 800円(税込)

えごまクッキー

好評発売中

〈袋〉10枚入 600円(税込)、20枚入1,150円(税込)
〈箱〉16枚入 1,000円(税込)、30枚入1,850円(税込)

2005年　第2回長野推奨土産品選定事業グランプリ受賞
2014年　第54回全国推奨観光土産品審査会にて
日本商工会議所会頭努力賞受賞

●エゴマとは…
エゴマは高冷地で栽培されるシソ科の一年草で、食用又は油が採れる油脂性の植物です。健康に良い「アルファリノレン酸」が60%以上含まれ、生活習慣病やダイエットに良いと注目されています。

(有)ふるさと鬼無里　〒381-4301長野県長野市鬼無里1690 Tel.026-256-2428

詳しい情報は▼ ふるさと鬼無里 検索

小麦粉とそば粉をあわせた特製の生地で、
野沢菜やかぼちゃの四季の野菜や山菜など、
旬の味を一つずつ手で包み込みました。
こんがりふっくら「炉ばたのおやき」。
焼きたてのほかほかの味をお楽しみください。

◆全国発送承ります

有限会社 いろは堂
〒381-4393　長野県長野市鬼無里1687-1
TEL 026-256-2033
フリーダイヤル 0120-168-041
フリーダイヤルFAX 0120-168-250

詳しい情報は…
PCまたは携帯から いろは堂 検索

谷の都 鬼無里 信州鬼無里

奥裾花自然園(ブナ原生林)

奥裾花自然園(ミズバショウ)

奥裾花キャンプ場

木曽殿アブキ

奥裾花渓谷

ポットホール

奥裾花大橋

文珠堂

鬼無里の祭り・イベント

伝説の古くより伝承されてきた各地区の春祭り、秋祭りに加えて、多彩なイベントもたくさん。
それぞれに楽しい祭りがいっぱいの鬼無里を、住民といっしょに楽しんでいただけます。

4月下旬～5月上旬　地区内各神社で春祭り　神事、獅子舞い奉納など。

4月下旬（開園日）　奥裾花自然園 開園・安全祈願祭
奥裾花自然園の奥裾花社の前で、観光客・入山者の無事を祈る神事が行われ、神楽が舞われます。

4月～10月まで毎月1回　奥裾花自然観察会（毎月1回）会場：奥裾花自然園
ボランティアガイドが同行して自然園内を中心に周辺の渓谷や山々をご案内します。自然景観地域として保護されている手付かずの自然は、訪れた皆さんへ多くのことを教えてくれるはず。日ごろの喧騒から離れ、ゆっくりと時間を刻む非日常感を楽しむことができます。

5月3日　鬼無里神社春祭り
紅白の幕や五色の吹き流しで飾られた鬼無里神社祭屋台（山車）1台が氏子たち大勢に曳かれて町の家並みを練ります。山国文化伝承館の通年展示されている祭屋台の、年一度の晴れ舞台です。

5月3日　白髭神社春祭り

5月上旬　柄山峠トレッキング
その昔、鬼無里の主要道路として善光寺から白馬を経て日本海へとつながっていた古道。峠の両側の地域文化が頻繁に往来し、濃厚に生活の香りがする幹線道路も車道の整備により衰退しています。往時に思いをはせながら歩いてみるのも楽しいです。

5月中旬　水芭蕉まつり
水芭蕉の見頃を迎える奥裾花で鬼無里鬼女紅葉太鼓の演奏、クラシック野外コンサート、トン汁の振る舞いなどが行われます。

5月中旬　砂鉢山登山
鬼女紅葉伝説の残る荒倉山の中で最高峰の砂鉢山への登山。やせ尾根や崩壊地の絶壁など変化に富んだ健脚向きのコースです。

6月上旬　一夜山ふれあい登山
一夜山直下までは車で向かい、そこから約2時間の登山で、北アルプス、美ヶ原、上信越の山々、戸隠連峰を一望にする独立峰に着きます。

6月中旬　奥裾花登山道整備ボランティア
鬼無里と北安曇郡白馬村、小谷村を東西に分ける稜線に位置する東山（1,849m）と堂津岳（1,926m）への登山道整備。稜線から北アルプスの眺望が素晴らしいルート整備をします。

6月第3日曜日　土倉文珠堂縁日

6月下旬～7月上旬　花しょうぶ祭とほたるの観賞会

7月15日～21日　鬼無里神社祇園祭
鬼無里神社に合祀された津島牛頭天王（素盞嗚命）の祭り。郵便局前に御旅所が造られ、悪魔や疫病を祓って町内を渡御した御輿が安置されます。子ども御輿も練り歩きます。

8月15日　鬼無里ふるさと夏祭り
裾花川河畔で花火大会、盆踊り、夜店などが行われます。

9月第2日曜日　白髭神社秋祭り

10月中旬　奥裾花登山道整備ボランティア

一夜山ふれあい登山

砂鉢山登山

10月下旬　鬼女もみじ祭り
昔、この地に京の都から美しく高貴な女性が配流され土地の産物を貢いだり加持祈祷を依頼して病を治してもらったりしたので、高貴な女性で民衆に仁恵を施す恩人の「貴女」として讃えられた「紅葉」の法要が行われます。

柄山峠トレッキング

10月31日　奥裾花自然園閉園

11月上旬　鬼無里新そば祭り

1月中旬　どんど焼き（地区内各地）

通年　ふるさと鬼無里発見！フォトコンテスト 作品募集（翌年1月まで）
美しい自然に抱かれ、人々の心も温かく優しい神秘の山里「鬼無里」の四季や伝統芸能、文化財など鬼無里の活き活きとした姿を伝える写真を募集します。

鬼女紅葉太鼓
奥裾花自然園開山祭や各種イベントで披露され、勇壮な太鼓の音にのって鬼女紅葉と平維茂の一騎打ちが行われます。

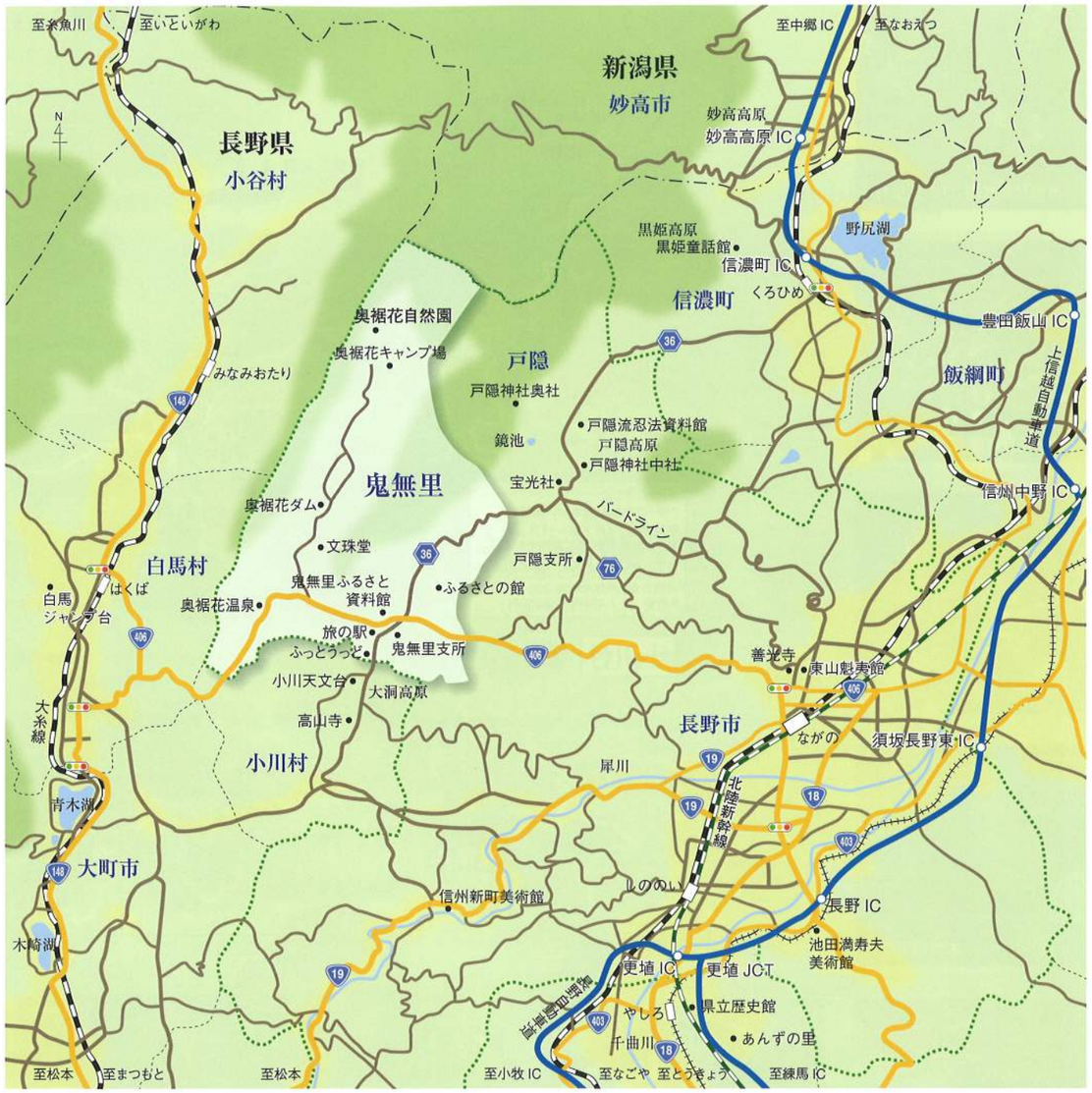
鬼無里神社春の例大祭

花しょうぶ祭とほたるの観賞会
6月下旬から7月上旬頃、重文白髯神社の鳥居前に1万株のハナショウブが見事に咲き誇り、観賞会が行われています。

鬼無里の蝶
鬼無里の山には、珍しいクモマツマキチョウやヒメギフチョウ、遙か沖縄まで渡りをするというアサギマダラなどが生息しています。人里でよく見つかるのはキアゲハ、カラスアゲハ、モンシロチョウ、ルリシジミ、チャバネセセリなど。いずれも大切な生きた宝石たちです。

鬼無里までの道のり

長野県の北部、犀川の支流、裾花川の源流沿いの盆地に広がる美しい自然に恵まれた里へ。
長野市街地から国道406号線を車でおよそ50分。トンネルの先に見える輝く自然を予感しながらの道のりです。



車で

名古屋IC	中央道・長野道 3時間	豊科IC	アルプスパノラマロード 1時間	白馬	R406 50分
名古屋IC	中央道・長野道 3時間35分	長野IC	R406 2時間10分		
練馬IC	関越道・上信越道 3時間	長野IC	R406 2時間10分		
糸魚川IC	R148 1時間10分	白馬	R406 50分		

電車で

名古屋駅	特急しなの 2時間46分	長野駅	季節バス・2時間	鬼無里	タクシー・40分
			路線バス・1時間		
東京駅	北陸新幹線 1時間26分	長野駅	季節バス・2時間	鬼無里	タクシー・40分
			路線バス・1時間		

奥裾花自然園観光センター
（バス運行時）シャトルバス10分＋徒歩15分
（バス運休時）徒歩50分
奥裾花自然園

鬼無里の歴史

鬼無里の九斎市

天和3年（1683）より鬼無里村町では毎月9回（1・2・8・11・12・18・21・22・28日）、九斎の市が開かれ、鬼無里特産の麻や和紙や炭や生活物資が盛んに売買されました。それで昔の人は、買い物に行くことを市立と言いました。

安永9年（1780年）の松代藩からの許可証
この地には早くから定期的に市が開催され、周辺の村々の商業的な中心地だった。

木食山居と木食仏

木食とは、木の実や草だけを食べて修行する僧を言います。

その一人で仏像一万体彫刻の願をかけた山居は、延宝（1673～80）の頃虫倉山中や上平の岩窟に籠り、毎日鉈一挺で仏像を刻み続けました。時折里へ下りて托鉢を行い、本尊のない家には鉈彫りの仏像を与えて仏法を説きました。村人は親しみをこめて彼をサンキョさんと呼び、慈しみに満ちた素朴なお顔の小さな山居仏を大切にしました。

『鬼無里村史』には山居は信州伊那の武士の生まれで、奉公先で誤って子供を井戸に落して溺死させたことから、仏門に入り、諸国行脚して当地に至ったと書かれています。後に大町九日（現大町市九日町）彈誓寺に招かれて移り、古希を前に即身仏となって入寂したと伝わります。

寺島数右衛門宗伴

明治5年（1872）の学制頒布で、数学に西洋数学が導入され、この時からそれまでの日本の数学は和算と呼ばれるようになりました。和算は高次方程式や平方根を駆使して図形問題を解析するなど、西洋数学に匹敵するレベルにありました。江戸初期の和算家関孝和らが円周率を高い精度で算出していたことはよく知られるところです。

江戸時代は、各地で和算家がそれぞれの流派を開いていましたが、孝和の流れをくむ関流と激論を戦わせたのが最上流の会田安明で、信州松代藩では町田源左衛門正記らが安明から最上流を学びました。

寛政6年（1794）鬼無里村萇畑に生れた寺島数右衛門宗伴は、初め別家の庄屋寺島半右衛門陳玄より宮城流の和算を学び、後に松代に出向いて正記から最上流を学び免状を得ました。宗伴はさらに謡や折形、生け花、礼法、囲碁などを習得し、これらを鬼無里の人に教え、時には善光寺平、越後、松本平などに出向いて教授しました。宗伴の門人は900人にもおよび、門人は宗伴顕彰の碑を2つ建立しています。一つは、最初萇畑の上に建てられて現在は一之瀬の旧鬼無里東小学校に建つ算子塚、一つは松巌寺境内の五輪塔です。

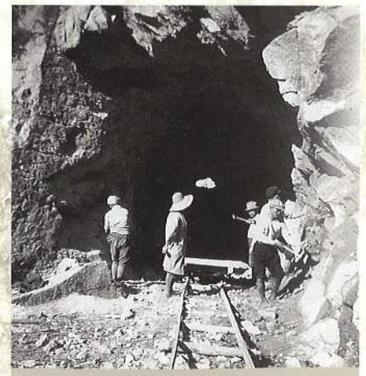
宗伴は明治17年2月2日90歳で大往生し、遺骨は前述の五輪塔と萇畑の生家墓地に納められました。

ところで天保13年（1842）宗伴一門が松巌寺観音堂に奉納した算額には次のような問題と解答が記されています。解いてみませんか。（数値は現代のものに改めました）

「60万円を3年間貸しました。貸した人数はわかりませんが、貸した金額は各人等しく、3年後に元利合計は105万1200円になりました。各人の年利の差は1割で、年利が同じ人はなく、各人の年利の和は6割です。人数は何人になるでしょう。ただし、毎年利息に利息を加える（複利計算）とします。」

長野道開通

江戸時代、鬼無里と他村を結ぶ道は、幕府の政策もあって、崖を迂回したり、尾根や峠を越えるものでしたから、明治時代には本格的な道路整備が始まりました。そして明治19年（1886）裾花川沿いに道路が開鑿されると、麻、木炭など鬼無里の物品が駄馬で大量に県都長野へ運ばれるようになり、大正時代にはトラック輸送も始まりました。この道が現在の国道406号です。



鬼無里街道のトンネル工事の様子
旧新道地籍だが、現在はダムに埋もれてしまっている。

鬼無里の匠と芸術

鬼無里ふるさと資料館

幕末～昭和の時代を映す、北村三代の彫刻がここにあります。

北村喜代松

（天保4年～明治39年／1833～1906）

鬼無里ふるさと資料館に展示された祭屋台と神楽の見事な彫刻。それはすべて北村喜代松（三代正信）が彫ったものです。

越後市振村（現青海町）の宮大工建部家に生まれた喜代松は、18歳頃から鬼無里を訪れ、諏訪神社屋台、鬼無里神社屋台、加茂神社の神楽などの製作に加わりました。

宮大工と大工の大きな違いは、彫刻技術です。腕の良い宮大工は一流の彫刻師であり、建部家は彫刻を得意とし、才に恵まれた喜代松は生粋の彫師に鍛えられました。鬼無里神社屋台や三嶋神社屋台の籠彫り、生気を感じさせる龍・鳳凰などの彫り物がその技の冴えを物語ります。

喜代松は文久年間（1861～4）長野村（現長野市）の北村ふさ（鬼無里生まれ）の婿となり、建部姓から北村姓となりましたが、建部家の世襲名正信（三代）はその後も名乗りました。

それから15年経て故郷から新築寺社の彫刻師として招かれた喜代松は、仕上げた作品が評判で新潟・富山から仕事の依頼を受けて長野に戻れず、妻と4人の子は翌年市振の喜代松のもとへ向かいました。

北村四海

（明治4年～昭和2年／1871～1927）

喜代松の長男直次郎は早くから彫師を継ぐ決心をかため、母の反対を押し切って小学校を中退しました。仕事を学び腕を磨き、20歳の頃には父の代参で長野・富山・新潟の社寺の彫刻補作に出向いています。

25歳の直次郎が鬼無里神社を訪れて彫った草刈童子が、東京彫工会主催彫刻競技会展で一等褒状を受け、同年四海の号で日本美術院協会展に出品した木彫神武天皇像も一等賞になり、新進木彫家として最高の船出をしますが、四海は木彫から大理石彫刻へ転身します。

当時の日本に塑造技術を体得した師がおらず、四海は象牙彫刻家に学びながら、独学で大理石彫刻を試みました。その初作「少女像」が明治32年の日本美術院協会展二等賞となり、しかも念願であったフランス留学が、明治33年パリ万国博覧会視察の作家代表となることで実現します。四海は、翌年の帰国まで、ジョルジュ・バローのアトリエで学び、美術学校で解剖学の講義を熱心に聴講しました。

時あたかもフランスはアール・ヌーヴォーの真っ盛り。その芸術運動に四海の心が振るえたことは、帰国後の彫刻の流麗なフォルムと、清

楚で美しく憂うような女性像から偲ばれます。それらはまた、警官の裸体像取締りを、芸術性の高さで抗いだ四海の反骨魂をもうかがわせます。

後に四海は、文部省美術展覧会審査員、帝国美術員展の彫刻部審査員を務めました。

北村正信

（明治23年～昭和55年／1890～1980）

四海の姉の子虎井広吉は、祖父喜代松のもとで彫刻を学び、14歳の時、四海に呼ばれて上京、太平洋画学校に学びました。20歳で四海の養子となり、5代北村正信を襲名、22歳で文展初入選した彼は、当初は逞しい男性像を発表し、後に製作した女性像は健康的な逞しさとおおらかさに満ち、芸術環境の成熟の中で正信がのびのびと腕を奮ったことが分かります。

彼は33歳の若さで帝展の審査員となり、後に日展評議員・参与を務めました。

長谷鉄男コレクション
喜代松の次男の息子で美術愛好家として知られた長谷鉄男の生前の意思と、遺族の好意で、祖母ふさの生まれ故郷であり祖父喜代松の祭屋台が飾られた鬼無里に、四海・正信の作品を始め、北村西望、新海竹太郎、綿引司郎らの彫刻80点が寄託され、北村三代の展示作品がさらに充実いたしました。

祭り屋台

鬼無里ふるさと資料館
TEL.026-256-3270

- 料金/一般200円・高校生100円・小中学生50円・団体20名以上2割引
- 開館時間/9：00～16：30（入館は16：00まで）
- 休館日/月曜日（祝日と重なる場合はその翌日）・祝日の翌日（土・日・祝日と重なる場合は開館）・12月下旬～3月中旬は冬期休業

太古の昔、
ここ、鬼無里には象が歩いていました。

400万年～40万年前、現在の象と共通の祖先をもつステゴドンゾウがこの地に生息。
鬼無里人は、今から3万年ほど前の狩猟民でした。そして、今に至るまでのなが～い長い歴史ロマン。
●詳しい展示は、鬼無里ふるさと資料館でご覧ください。

太古は海の底

日本列島は、太古から長い時間をかけて海底から隆起し、今日の姿になりました。
鬼無里の山里も太古は海の底でした。
鬼無里ではおよそ600万年前の地層が一番古く、その当時、日本周辺は図のようでした。
右下図は、裾花川渓谷に露出する日影砂岩礫岩層が堆積した時代の海と陸の状況です。すでに北アルプスは陸化しており、日影砂岩礫岩層は、この北アルプスから川が運んだ古生層の岩石や火成岩を含んでいます。クルワドウ沢の団塊（ノジュール）とよばれる、丸い礫がこれです。ほかにホタテガイ、ザルガイ、ツキガイなどの貝化石や落葉広葉樹の葉の化石、海底生物の巣の痕であるサンドパイプなどが見つかっています。

600万年前から300万年前まで
（新第三紀・鮮新世）

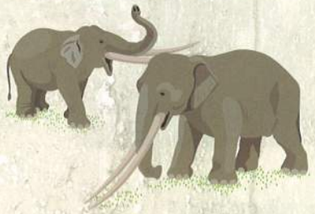
300万年前から200万年前まで
（鮮新世-更新世（洪積世））
（資料/湊正雄『目で見る日本列島のおいたち』）

一之坂の亀甲岩

一之坂の国道406号脇で、亀の甲羅のような形にひび割れた、モザイク模様の地層が見られます。これは日影砂岩礫岩層より古い田之頭泥岩層時代に、泥と砂が交互に堆積し（互層）、その泥層が太陽に照らされて干し割れた時、割れ目に砂が詰まって割れた当時の形が保たれたものです。亀甲岩と呼ばれています。

ステゴドンゾウが闊歩

昭和61年、奥裾花のハシゴ沢で、ステゴドンゾウの左下顎骨の化石が発見されました。ステゴドンゾウは400万年～40万年前にインド、東南アジア、アフリカなどに栄えた大型の象で、現在の象と共通の祖先をもちます。ステゴドンゾウの骨は大陸部と地続きの暖かい時期があったことをうかがわせます。
シナノゾウと名付けられた信州のステゴドンゾウ化石は戸隠や、松本市四賀でも見つかっています。



うるし平人はナウマンゾウ狩人

現在分かっているいちばん古い鬼無里人は、今から3万年ほど前の水河期にうるし平にいた狩猟民で、彼等は黒曜石の石器を今に遺しました。当時のうるし平一帯はモミやツガやトウヒなど寒帯樹林に覆われ、噴火中の妙高山・焼山からの火山灰が降りそそいでいました。その中で彼等はナウマンゾウやオオツノシカを狩りしていました。

肉と魚の縄文時代

財又の諏訪神社境内から、7000年前の縄文前期の土器石器が出土しました。鬼無里の縄文遺跡は、裾花川の川沿いに集中しており、狩猟と漁労（サケ・マス漁）による暮らしをしていたと推察されます。

弥生・古墳は未だ謎

一ノ坂で甕形土器、和田沖や内裏屋敷で磨製石斧が発見されていますが、ほとんどが山地で低湿地が少ないためか鬼無里では、いまだ明確な弥生遺跡が見つかっていません。
また古墳遺跡の伝承は「月夜の陵」のみで遺品等は、確認できません。4世紀～7世紀の空白は、遺跡が無いからなのでしょうか発見できていないだけなのでしょうか。

鬼無里遷都

【これは伝承です】
白鳳時代、天武天皇は遷都を計画し、天皇13年（685）に、三野王、小錦下采女臣筑羅らを信濃に遣わしました。鬼無里に赴いた一行は、裾花川畔の高丘に使者館を設けて東京と定め、加茂神社を勧請し、馬繋ぎ場所に三の字を刻んだ大石を置いたという伝承があります。また、対岸を西京と定め、ここには春日神社を祀りました。
さらに鬼門の守護神として日影に猿田彦命を祭神とする白髯神社（本殿は国重要文化財）を鎮座させました。

加茂神社

白髯神社

内裏屋敷の鉄滓

縄文晩期からの遺跡である内裏屋敷遺跡からは9世紀～10世紀の土師式土器が出土し、鉄滓（鉄を鍛えるとき落ちる屑）も見つかりました。鉄滓の出土は、製鉄場の存在を推測させます。製鉄が行われていたとしたなら誰が伝授したのでしょう。伝説では、内裏屋敷の主は紅葉です。彼女でしょうか。

木那佐と書かれた昔

12世紀頃の鬼無里は、戸隠社領（顕光寺／旧戸隠村）と小河荘（現小川村・旧中条村など）に挟まれていました。長禄2年（1458）にまとめられた戸隠山顕光寺流記に「奉 常燈一灯、油料木那佐山一所」とあり、鬼無里の一部が戸隠社に常灯明代として寄進されたことが分かります。字は異なりますが、これが古文書への「キナサ」の地名初出です。当時の鬼無里は柳原荘です。

木曽義仲と文珠堂

【これは文珠堂にまつわる伝承です／鬼無里では文殊ではなく文珠と伝承されてきました】
寿永2年（1183）、北陸進攻で鬼無里を通過した木曽義仲は、守仏の弘法大師作大聖知恵文珠菩薩像に一巻の軸をそえ、土倉薬師堂に合祀して武運を祈りました。仏の加護を受けた義仲は倶利伽羅峠の戦いなどに大勝利し、入京するや征夷大将軍に任じられて旭将軍と呼ばれました。しかし元暦元年（1184）源頼朝の軍が京へ攻め上り、義仲は栗津ケ原でこれを迎え討ちましたが、破れ、31歳の生涯を閉じました。
この時、義仲に従っていた仁科城主（現大町市）仁科盛遠は、義仲の第二子力寿丸を守って間道を抜け、仁科に戻りました。盛遠は頼朝から力寿丸を隠すため、土倉に一堂を建てて力寿丸を隠棲させ、義仲の文珠菩薩像を堂に移して父の菩提を弔わせました。そして力寿丸が元服すると自分の娘を娶らせ、信濃守義重と名乗らせて信濃源氏の跡目を継がせました。
いま、土地の人は土倉文珠を日本三文珠の一つ（他は京都の切戸文殊、奥羽の亀岡文殊）と呼びます。境内の朝日神社は、天思兼命と木曽義仲を祀ります。

竹田の児安様

【これは児安様にまつわる伝承です】
昔、長峯に木曽義仲の四天王の一人今井四郎兼平の城がありました。城主の奥方が懐妊したので、新井に児安大明神を勧請して祀り、無事安産ができました。以来、安産の神として信奉されていますが、参道が急坂な山道のため、明治26年、集落近くに里宮が建てられました。城主が児安神社を建立の際に傍らに植えたものと言われる目通り7メートルの長野県天然記念物新井のイチイは、樹齢700年ともいわれて風格があります。

鬼無里の歴史

五輪塔

五輪塔は中世の武士の供養塔・墓標で、「地・水・火・風・空」の五大を「方形・円形・三角形・半月形・宝珠形」でかたどったものです。松厳寺に鬼女紅葉と家来の五輪塔、土倉集落に義仲親族の五輪塔と伝わるものが残るほか鬼無里には五輪塔が数多くあります。鎌倉・室町時代、鬼無里には多くの武士がいたのでしょう。
ところで、「空」の宝珠形は欄干の上につける擬宝珠に似ています。だからでしょうか、鬼無里を旅すると思わぬところにある「空」を見かけます。

戦国時代の領主たち

古城公園がある標高925メートルの高台は、戦国時代小川城の家老大日方金吾直経の城（鬼無里城）がありました。大日方氏は武田方に属し、武田氏が滅びた時は幼い大日方つく房が家督を継いでおり、織田方の木曽義昌は、つく房が成人するまで鬼無里之郷を松本源丞と保科清助両人に預ける旨の朱印状を天正元年（1573）6月に書いています。これが今に残る古文書で村名に「鬼無里」の字が使われた最古のものです。義昌の約束は越後の上杉景勝の北信濃進攻で反故となり、鬼無里は上杉の支配下に置かれました。

江戸時代の鬼無里

江戸時代の鬼無里は、松代藩真田10万石の領地でした。真田信之が上田から松代に移封された際の知行目録に、鬼無里村高千四拾六石三斗七升四合、日影村五百五十五石一斗九升と記されてありますから、当時すでに稲作が広範囲に行われていたことが分かります。真田氏の統治は、明治維新まで続きました。

鬼無里神社

創立は定かではありませんが、古くから産土神の諏訪大明神として崇められ、武田信玄や大久保長安が社領を寄進し、松代藩真田家も篤く崇敬した古社です。明治11年、鬼無里神社と名が改められました。

松厳寺

この地には鬼女紅葉の五輪塔を供養する鬼立山地蔵院がありましたが、元和元年（1615）村人たちは寺院を建てて、開祖に北安曇郡小岩獄村（現穂高町）青原寺より松巌芳祝禅師を迎え、師の名をいただいて松厳寺としました。徳川幕府は寺領を寄進し、帰依した真田家は高40石の諸役を免じています。
現在の本堂は、欄間を曹洞宗の開祖道元禅師一代記で飾り、格天井には兒玉巣亭の高弟藤原紫僊が描いた花鳥画がはめられています。鬼無里の木食仏と鬼女紅葉伝説の解説は、旅人にはありがたいガイドです。

松厳寺

鬼無里の青金引麻

標高がもっとも低い瀬戸地区で649m、鬼無里支所は678mです。天候に大きく左右された江戸時代の稲作りは大変なことでした。そこで人々は蕎麦、粟、稗を栽培して旱魃や冷害に備え、また木炭、麻糸、鬼無里紙の副業に励みました。麻は文禄年間（安土桃山時代）頃から栽培され、鬼無里産麻糸は青金引麻の名で善光寺町・松代城下を初め江戸へも売られて行きました。当初は麻そのものを売っていましたが、明和年間（1764～1771）吉郎右衛門が江戸で麻糸を加工して畳糸にする技法を覚えて帰り、里に製法を広めました。明治初年、寒冷積雪地の不利を逆に寒晒しとして活用する手法が考案され、光沢のよい寒晒し畳糸は氷糸の商標で高値売買されたので、鬼無里村では95%の農家が麻を栽培し、麻全生産量の半分が、畳糸に加工されて出荷されました。

風情豊かな北信濃、鬼無里の旅へ

おでやれ、なんさ。

合の都
鬼無里
信州●きなさ
KINASA

太古と出会い、そして伝説が語りかける。

鬼無里までのアクセスマップは、9ページをご覧ください。

鬼無里観光振興会：〒381-4302 長野県長野市鬼無里日影2750-1（鬼無里支所内）
TEL.026-256-3188 FAX.026-256-2237
URL http://odeyarekinasa.jp/